



『目標と夢』

北海道
真駒内少年剣道会
中学2年生 新崎 梨衣奈

私は、幼稚園の頃、祖父の影響で剣道を始めました。この頃の私は、周りの人達は上達していくのに比べ、祖父や先生から注意を受けるばかりで、「また怒られる、剣道をやめたい。」と思うようになり、防具を着ける前にととうとう剣道を止めてしまいました。

私には、一歳年上の兄がおり、兄も幼稚園から剣道を始め、私とは違い、稽古を一生懸命に取り組む優等生でした。そんな自慢の兄がある大会に出場したとき、私は応援のため試合会場に足を運びました。そこには気迫に満ち溢れた声と竹刀の乾いた心地いい音が響いていたのです。私は「懐かしいな」と思うものの、また剣道をやりたいとは正直このときは考えることはできませんでした。しかし、兄が試合を勝ち進み、決勝戦が始まる頃には大声で兄を応援している自分がいました。そして兄が優勝を決めた瞬間、「もう一度剣道をやりたい。そしてもう二度と途中で投げ出すことはしない。」と強く心に決めたのです。

その後、私は、稽古に明け暮れ防具を着けるようになってからは、先生に「いいね。すごく上達したね。」と褒められることがとても嬉しくていつの間にか剣道に夢中になっていました。

初めて出場した試合では惨敗、剣道の楽しさと難しさを感じた瞬間でした。そんな私も小学4年生のときに留萌で開催された大会で3位に入賞することができ、優勝はできませんでしたが、兄に少し近づけたことが嬉しく、これが切っ掛けとなり、兄に対する思いが雲の上の存在から「兄に追いつきたい」という気持ちに変化したのだと思います。

兄が道場のキャプテンで仲間を気遣い、チームをまとめている姿を見れば「私もいつかは兄のように強く優しいキャプテンになりたい。」と思うようになり、普段の行動も変わっていきました。それまでは自分の事で精一杯でしたが、仲間の事や周りをよく見て行動するように心掛けました。そういった意識の変化が認められたのか先生や仲間からキャプテンの推薦を受けることになり、私自身も「よし、やるからにはチームをしっかりまとめよう」と決心した矢先のことでした。

家庭の事情で当時住んでいた留萌から札幌に転校することになったのです。キャプテンの役割も果たすことなく、離れてしまうという申し訳なさと、なんととっても今までお世話になった先生や仲間達と一緒に剣道ができなくなるという寂しさがありました。札幌に行っても剣道は必ず続けて、各種大会などで先生や仲間と会えるように一生懸命に努力することを誓い、留萌を後にしたのです。

札幌では現在、所属している真駒内少年剣道会に入会しました。入会当初は強い選手が多数いる中で自分が選手になることができるか不安になりましたが、「強くなりたい。」という一心で稽古に励み、徐々に大会でも上位に入賞することが増えていき、今では自分の剣道に自信が持てるようになりました。

私の剣道の目標は、今も昔も変わらず兄です。「兄に追いつきたい」という思いで剣道を続けてきましたが、その中で夢を持ちました。その夢は、警察官になること。そしていつか剣道で日本一になることです。

現在の道場の先生方が警察官ということもあり、警察官になって誰かの為に仕事をしながら剣道を生涯続けたいと思ったからです。

今はまだ兄には遠く及びませんが、いつの日か兄を追い越し、警察官となって剣道日本一になることを夢見て、今後も真剣に剣道と向き合っていきたいと思います。